



妙たえの光ひかり

通刊51号 復刊30号

2000年7月10日(季刊)

角田山妙光寺 発行
新潟県西蒲原郡巻町
角田浜 〒953-0011
TEL 0256-77-2025

紫陽花

梅雨時を代表する花で、日本古来からの園芸植物として万葉集にもその名が登場する。ガクアジサイが原種で、房総や伊豆半島などで自生している。あず(集まる)さい(藍色)から生まれた言葉とか。

アジサイ寺とかアジサイ山など各地にその名所があつて、妙光寺も巻町の小林與志英さんが一生懸命植えてくれた。でも境内が広すぎて名所と呼ばれるには程遠い。花が咲いたあと切り落とさなければならぬのと、成長が早いからすぐ藪になってしまつて管理も大変で、足腰の弱つた小林さんは誰か後を引き継いで欲しいと言っている。写真の花も小林さんが参道脇に植えた一株だ。

お釈迦様の誕生日の花祭りに甘茶をかけるが、これを作るアマチャの木も、アジサイの仲間だという。お寺にこんな縁があることを初めて知った。

不幸を乗り越えて

小川英爾

その昔、お釈迦さまがある村に入つていかれたとき、女性のただならぬ泣き声をお聞きになった。不審に思われ理由を尋ねると、「お釈迦さま、よくお尋ねくださいました。あなたは人が困っているときどんなことでも相談にのってください、助けてくれるとの噂を聞いておりました。私は以前夫を亡くしこの子を頼りに生きてきました。それなのに今この子が急に死にました。お願いです。この子を生き返らせてください」。

六、七才ほどの男の子の遺体をご覧になったお釈迦さまはこの母を気の毒に思われ、生き返らせる薬を調合するためにケシの種を持つてくるようにいつけられた。「その種をもらつてくるとき、その家に不幸があつたかどうか聞きなさい。不幸のあつた家の種ではだめですよ」と注意された。母親はケシの種をもらいに日暮れまで数十軒を訪ね歩いたが、ついにもらい受けることができなかつた。しょんぼりと子の遺体のところに戻つた母親は「お釈迦さま、世界中で私が最も不幸な人間だと思つておりました。でも他の人たちもそれぞれ不幸にあい、その不幸を乗り越えて生きてきたことに気がつきました」。

お釈迦さまはこの母親の肩にやさしく手をおいて、「あなたは大変良いことに気がついた。あなたがこの不幸を乗り越えて力強く生きぬくとき、この子はあなたの心の中に生き返るだろう」と諭されたという。有名なお釈迦さまの伝説のひとつだ。このところこの話を思い起こさせるできごとが相次いだ。

K君は母と姉の三大家族。中学まで健康で活発な少年だったが、心臓に障害があることがわかり高

校一年の夏休みに手術を受けた。簡単な手術のはずだったがなぜか回復することができず、病状はかえって悪化。母親は献身的な看病を続けながら、入院している病院を医療ミスだと裁判に訴えたが、この訴訟は難しく認められなかった。人一倍明るく面倒見のいいK君は学校で人気者だったのに、とうとうクラスの仲間たちと一緒に卒業することができなかった。そのとき学校側は特別の配慮をして、病室で修了証書を手渡した。

「あなたは平成元年七月 病のため学校をはなれ お母さんの献身的な看護のもと若さと気力をもって病と闘ってこられました その身は病院にありますが心はいつも級友と共に学校生活を続けておりました 母と子の生きる崇高な姿は私たちに深い感動を与えてくれました ここに本校普通課程を修了したことを証し 併せて一日も早い回復を心からお祈りいたします」。明治からの歴史を持つこの学校の特別第一号の修了証書とあった。このときK君とふたりで本当に喜んだと母は語ってくれた。

しかしその後も病状は好転することなく、二十六才の誕生日を迎える二日前、その短い人生の幕を閉じた。母親は遺骨を抱え、病身のK君を乗せてドライブした思い出の地を巡った。そんななかで妙光寺に出会い、改めて娘夫婦とともに葬儀をしてこの春納骨を終えた。

同じ頃、檀家のH君が三十一才でやはり心臓病で急逝した。母親のショックは大変だった。突然なうえ、実はこれまでに長男を幼くして事故で失い、その後夫をガンで亡くしているのだ。葬儀のあいだ中、甲問答の対応に忙しい娘夫婦に代わって、H君の恋人が力を落とした母親に付き添っていたのが印象深かった。今は娘夫婦が支えている。

お経文のなかに「我もまたこれ世の父、諸々の苦患（苦しみ）を救うものなり」とある。お釈迦さまは、親が我が子の成育を願うと同じように、私たちの生活の苦しみの乗り越え方を教えておられる。それが法華経で、さまざまな例え話で説かれている。

いまふたりの母親はさまざまない出のなかで、悲嘆にくれつつも毎日に元気を取り戻しつつある。お釈迦さまの言葉を伝え、少しでも力になれたらと、住職として願っている。

信心

元氣な勝手働き

巻町 割前の女性六人

(平均年齢四十台後半?)



妙光寺では行事のあるとき、いつもお齋といって昼食を用意する。法要のあと、これを食べて午後からお説教というのが基本的な形だ。お供えされた米や野菜のお下がりを、お参りした人たち同士、仏様と同じ釜の飯を食べることであり、これが供養でもある。供養という字は、人が共に養うと書く。

韓国のお寺を花祭りに訪ねたとき、本堂の前に調理されたさまざまな野菜が山のように積まれ、お参りをおえた人だれかれなく食事が振舞われていた。山中の小さな寺でも参拝の人がとぎれることなく続き、お手伝いの信徒の女性たちが賑やかにおしゃべりしながら、野菜を盛ったご飯を次々と運ぶ姿が印象的だった。日本の寺にもこんな活気があったらと思ったのが、いま妙光寺の行事を勤め

る心の底にある。

日本の町のお寺ではお齋を調理する働き手が頼みにくく、さりとて外注のお弁当では味気ない。だから行事を午後からにしたりして、お齋を用意する行事の回数を減らしていると聞いた。

妙光寺も人手の確保は確かに大変だ。昔は亡くなった内藤リイさん(潟の婆ちゃん)や、石田美千江さん(作善かあちゃん)といった人たちが中心になって働き、覚えている方も多い。いまは大滝幸子さんを中心とする地元角田浜の女性達と、さらに大事な戦力が巻町割前の元氣な女性達。

内藤峰子さんを中心に、恵美子さん、孝子さん、富子さん、良子さん、イキさん。全員が内藤姓。ひとつの集落にかたまって世代も近いから日頃から仲良し

で、ときにはこのメンバーでカラオケにも行くとか。ひとりふたり都合で欠けることもあるが、主にお彼岸行事が出る。このときには台所の方から賑やかな声が聞こえてきて、住職もすっかり近づくと手伝わされそう、そんな明るい雰囲気がある。

以前は子供の学校行事と重なり困ったこともあったが、近頃は孫が生まれて若い婆ちゃんになった人もいる。皆「お寺に来て働くのが楽しい」と言ってくれるのがなによりだ。



寺の動き

上棟式にお出かけください



別紙でご案内のように、八月十九日に

本堂の棟上げ式（上棟式）と、フェスティバル安穩、岩屋七面様の祭祀を行ないます。ことに上棟式は二百三十年ぶりですから、法要のあと昔ながらの餅撒きをします。ぜひお誘い合わせお出かけ下さい。大勢で足場も悪いので事故が起きないように配慮しますが、ご注意とご協力をお願いします。

祝宴も簡単ですが準備します。これだけ事前の申込をお願いします。

工事は順調で、七月中に基礎工事が完了します。八月一日はお盆行事ですでお休みして、二日から大がかりに柱建てが始まります。本堂の屋根だけがかった状態で、上棟式を迎えることになる予

定です。

資金勸募の状況を別紙「護持会々報」で報告しましたが、これは三月時点の金額です。最新の六月末現在では、

寄付申込総金額

一億三千三百五十七万二千百円

入金済総金額

一億五千六百五十五万一千九百円

となっております。

目標総予算額が二億四千万円で、一時は難しいかと思いましたが。しかし大変ありがたいことに、檀家外の思いがけない方からのお申し出が続いたりして、順調に増えてきています。心から感謝申し上げます。

妙光寺に至る道路脇に側溝があつて、



これが梅雨どきなどの大雨には溢れる事態が続いていました。以前から町当局に対応をお願いしてきましたが、このたび大型の側溝に付け替え工事がなりました。今年度百メートル、来年度残り百メートルです。大型の側溝で危険なため、ガードレールの設置も併せて行なう方向で検討中です。

「護持会々報」に収支報告他をお知らせしました。今年度分の会費納入をお願いします。

夏のフェスティバル



去る四月二日、東京三田のお寺を会場にミニフェスティバルを開催しました。参加者は二十人余りでしたが、いま話題の「エンディングサポート（もしものときのお手伝い）」について、専門家の黒沢淑子さんをゲストに語り合いました。そのとき「葬儀は妙光寺でやってもらえるのか」という質問が出て、原則的にはお受けするし、一般で言われるほどの経費がかからない方法についてもお答えしました。いずれ整理してお伝えしたいと考えています。

別紙ご案内のように、今年のフェスティバル安穩は本堂工事の都合で、「語り合い」をお休みします。別に会場を借りてという案も出ましたが、移動が困難な

ことと上棟式の準備もあつて無理と判断しました。その分上棟式にぜひご参加ください。夕方の懇親パーティーにもお気軽に。

法要はいつもどおりです。今年はいつものあの勇壮な太鼓に、初めてフルートが加わります。四基目も完成してより形の整った安穩廟です。裏の山々にまでフルートの音色が響き、厳か发展中心安らぐ場になることでしょう。

今年もローソクの献灯をお願いします。それぞれにお名前を入れて法要の際に点します。昨年から一本三千五百円の細目のローソクに変更、法要の時間内で燃えつきるようにして好評でした。

同封の振り替え用紙で郵便局から年

会費をご送金下さい。いつもどおり領収書の用意はありますが、「郵便局から出るので無駄では」との意見がありました。確かに送料がかかります。そこでご希望の方のみにお送りします。

用紙に受領書送付の要不要、近況、フェスティバルの献灯、懇親パーティー等をお書き添え下さい。

四基目は七月末完成、八月一日十時半から開眼法要をします。六月末で四十七件のお申込です。

納骨や法事後、お斎といつて参列者の食事を妙光寺でなさる方が多くあります。今後も可能ですが、さらに近くのワイン蔵レストラン「カーブドッチ」でも、貸し切りで法事のメニューができました。ひとり四千元からです。すでに二組が利用され好評でした。ただし土日は結婚式が多いそうで、早めにご相談くださいとのこと。



心があつまる



小川 なぎさこ

境内の庭木の移動、本堂の引越し取り壊しと順調に進み、今は基礎工事が始まっています。それに伴い、さまざまな雑用に追い立てられるように、あつとゆうまに春が過ぎてしまいました。同時にお庫裏の床張り替えの工事も進んでいて、毎日大工さんの金槌の音が鳴り響いて賑やかです。

何かものを作り上げるといふ作業は、これほど多くのプロが仕事を積み上げるということなのだと思感し、しみじみと感動しています。

知恵と経験と技術の結集で本堂が出来る上がる、その過程を実際に見ていられることは幸運だと思っています。とても興味ぶかいものです。

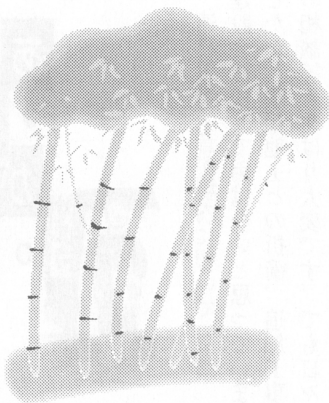
仕事として、形が出来上がった時の喜びはおおきなものでしょうね。そう思いながら、今の私の生活を考えると頭を抱えてしまいます。そもそも住職の奥さんというだけで、お寺の日々の細々した事をやることなんてだれでも出来るのです。まして形に残るものでも無いのですから、ね。

うちの住職は私にとっても厳しくて、四六時中会社の上司と暮らしているようなところがあります。むっときたり、いまましく思う事もあるのですが、でもお寺での日々の新しい発見がとてもためになり、感動的なので、差し引いてもあまりあるものがあります。物をつくることへの憧れを抱えながら、形にならないけ

れど、これも大切と思いながら暮らすことが、私の仕事だから、と思つて。

一人一人の心、というしずくが新しい本堂に集まり、形になること、本当にすごいですね。小さな雨粒が集まって、やがて大きな川の流れになり命をはぐくむように。新しい本堂が次に何を生み出すのか、楽しみに待ちたいと思います。工事が順調に進むことを祈りつつ。

八月の上棟式にはお出かけ下さい。めつたにないことですから、お待ちしています。



行事案内

七月八日～十五日

東京お盆お経

住職がお伺いします。日程的に回りきれない場合は秋のお彼岸になります。従来からの檀家宅に伺っていますが、安穩会員でご希望があればお知らせください。秋の日程に組み入れます。

八月一日(火)

お盆墓まいり・施餓鬼法要

午前六時 墓お経受付開始

(安穩廟のお経も受付しています)

〃 十時半 安穩廟法要

〃 十一時 施餓鬼法要

昼 十二時 おとき

午後一時 説教

七月中に世話人が各家に護持会費、施餓鬼塔婆供養料をいただきに回ります。県外、新潟市等遠方の方は、郵便振り替えか、八月一日にお持ちください。上棟式参加費も同様です。塔婆供養のお申込だけは早め郵便でお願いします。

八月十三日～十六日

お盆柵経

例年どおり住職と鎌田、それにお手伝いの成川上人の三人で手分けして全壇家に伺います。何日になるか知りたい方は、八月十日過ぎに電話ください。予定をお知らせします。新潟等遠方は早めになりますので直接ご連絡します。

八月十九日(土)

午前十時半 岩屋七面様祭礼

午後一時半 本堂上棟式

〃 三時半 安穩法会

〃 五時半 祝宴(懇親パーティー)

詳細は別紙案内書をご覧ください。

九月二十三日(祭日)

秋季彼岸会法要

午前十時半 安穩廟法要

〃 十一時 彼岸中日法要

昼 十二時 おとき

午後一時 説教



あ
と
が
き



連日仕事の音が境内に響いています。建設会社任せで用はないと思つていましたが、隣接地主との折衝、追加工事の相談等やはり大変です。でも日々形ができていくのを見るのは楽しいもので、気分は高揚しています。関連して考えねばならないことは多いのですが、ぼちぼちやります。

本を出版して記念パーティーを東京で開いていただき、家族で行きました。学生時代の友人、恩師、各宗派の僧侶、墓や葬儀の研究者に業界の人たち、マスコミ等々、実に多彩な方々が七十余名も集まり、楽しい会でした。本来なら皆様にもご案内したかったのですが、そうなるかと大会場が要ります。ご報告かたがたお礼申し上げます。

元気に夏をお過ごしください。小川